

# 道路の将来ビジョンの論点について

## I 概要

「福井県長期ビジョン」の示す将来像の実現に向けて、社会情勢の変化や新たな課題・ニーズに対応できるよう、今後の道路整備の方向性や進め方を示す。

### 【福井の道路をとりまく状況（課題）】

1. 高速交通・物流ネットワークの整備促進、交流の拡大・産業の活性化  
（課題）ミッシングリンクの解消、産業道路、県境道路の整備
2. 頻発する激甚災害への備え、安心して暮らせる基盤の強化  
（課題）道路施設の老朽化、子どもや高齢者の移動経路における交通安全の確保
3. 道路に求められるニーズの多様化  
（課題）歩行者、自転車の快適な通行空間の確保、景観づくり（まちづくりとの連携）
4. 県民とのコミュニケーション  
（課題）道路に関する情報を積極的に収集・発信、県民との協働による道路整備

### 【道路の将来ビジョンの論点（案）】

#### （道づくりの基本方向）

1. 広域交流の拡大 ～広くつながるみちづくり～
  - （1）県土の骨格となる幹線道路の整備
  - （2）東西南北に開き、交流を拡大するネットワークの整備
2. 産業・観光の活性化 ～ふくいをみがくみちづくり～
  - （1）産業経済を支援する道路整備
  - （2）周遊・滞在型観光を促進する道路整備
3. 幸福度日本一の生活基盤 ～ふくいの暮らしを支えるみちづくり～
  - （1）生活を支える道路整備
  - （2）誰もが安心して暮らせる道路整備
  - （3）公共交通機関との連携
4. 県土強靱化と持続性 ～強くてしなやかなみちづくり～
  - （1）大雨・大雪など災害に備える道路整備
  - （2）道路施設の予防保全・長寿命化
5. 多様性の創造 ～楽しく心地よいみちづくり～
  - （1）楽しめる道路空間の創出
  - （2）景観・環境への配慮

#### （道づくりの基本的な進め方）

1. 効率的、経済的な事業展開
2. 県民とのコミュニケーション
3. 情報化技術の活用

## Ⅱ 道づくりの基本方向の論点

(※点線枠内は第1回懇話会の委員発言の要旨)

### 1. 広域交流の拡大 ～広くつながるみちづくり～

#### (1) 県土の骨格となる幹線道路の整備

- ・ ミッシングリンクとなっている中部縦貫自動車道の整備
- ・ 暫定2車線となっている舞鶴若狭自動車道など高規格幹線道路の機能強化(4車線化)
- ・ 広域ネットワークを形成する地域高規格道路(特定広域道路)の整備

#### (2) 東西南北に開き、交流を拡大するネットワークの整備

- ・ 国道8号や国道27号など県境部の広域幹線道路の整備
- ・ 国道417号(冠山峠道路)や国道303号など広域幹線道路をつなぐ広域道路の整備

- ・ 中部縦貫自動車道や国道8号など、骨格となる道路はしっかりと進めていただきたい
- ・ 防災や観光振興のため横につなぐ道づくりをお願いしたい

### 2. 産業・観光の活性化 ～ふくいをみがくみちづくり～

#### (1) 産業経済を支援する道路整備

- ・ 福井港丸岡インター連絡道路など、企業誘致や産業の活性化に資する道路の整備
- ・ 県道福井森田丸岡線など渋滞箇所の解消に資する道路の整備

#### (2) 周遊・滞在型観光を促進する道路整備

- ・ 国道417号(冠山峠道路)など広域周遊観光ルートを形成する道路の整備
- ・ 道の駅、SA・PA等の施設の充実やサービスの向上およびアクセス道路の整備

- ・ 道路は、つながる・つなげる・流すことが大事である
- ・ 防災や観光振興のため横につなぐ道づくりをお願いしたい(再掲)
- ・ 駅から幹線道路へのアクセス向上
- ・ 産業道路と生活道路の区分け

### 3. 幸福度日本一の生活基盤 ～ふくいの暮らしを支えるみちづくり～

#### (1) 生活を支える道路整備

- ・ 県道坂本高浜線、国道158号バイパスなど県内の地域間を連絡する道路の整備

#### (2) 誰もが安心して暮らせる道路整備

- ・ 身近な生活道路の安全確保
- ・ 子どもや高齢者が安全に通行できるよう交通安全対策の推進
- ・ 無電柱化による快適な通行空間の確保 など

### (3) 公共交通機関との連携

- ・新幹線駅や道の駅などを拠点とした二次交通との連携の強化
- ・駅や主要施設へのアクセス道路の整備

- ・安心して住み続けることができる、生活を支えることができる道路づくり
- ・安全に快適に歩ける道路が必要
- ・車での移動ではなく、公共交通機関での移動を考える
- ・公共交通機関と連携した道路整備
- ・駅から幹線道路へのアクセス向上（再掲）

## 4. 県土強靱化と持続性 ～強くてしなやかなみちづくり～

### (1) 大雨・大雪など災害に備える道路整備

- ・緊急輸送道路など重要な道路上にある防災が必要な箇所を重点的に整備
- ・災害時の安定的な人流・物流の確保に向けたダブルネットワーク化の推進
- ・ICTを活用しながら幅広く道路情報を収集し、発信・共有を図り、安全な通行の確保

### (2) 道路施設の予防保全・長寿命化

- ・定期点検を実施し、予防保全による老朽化対策の推進

- ・災害に強い道路の整備
- ・新しい道路をつくるだけでなく、今ある道路を維持していくことも大事
- ・老朽化対策として、事後対策ではなく予防保全対策を進めていくことが急務
- ・情報化がかなり進んでおり、道路に活かしていく

## 5. 多様性の創造 ～楽しく心地よいみちづくり～

### (1) 楽しめる道路空間の創出

- ・歩行者の利便増進につながる道路空間の整備
- ・サイクリングコースの整備（郊外、健康増進）
- ・市街地内の自転車通行空間のネットワーク化（日常利用）

### (2) 景観・環境への配慮

- ・周辺の風景や街並みに合わせてデザイン性のある景観に配慮した道路整備の推進
- ・車以外の移動モビリティへ転換（低炭素化） など

- ・歩きやすい歩行空間・歩いて楽しめる空間整備を進める
- ・多目的利用ができるよう柔軟性を持たせる
- ・美しさや心地よさ、景観性、デザイン性を持った道路整備を進める
- ・まちづくりと一体となって、賑わいを創出
- ・多様化する道路の使い方を考える必要

## 1. 効率的、経済的な事業展開

### （1）選択と集中による事業展開

- ・重要度や必要性を踏まえ、適切に事業評価を行い、効果的・効率的に事業を進める

### （2）建設から維持管理を含めたライフサイクルコストの軽減

- ・維持管理を含め、長期的な視点でのコスト軽減を図り、事業を進める

### （3）既存の道路（ストック）の維持管理の充実と長寿命化

- ・定期点検を実施し、予防保全対策による道路施設の長寿命化を図る
- ・民間事業者との連携（PPP）や県民との情報共有を図りながら、選択と集中による効果的・効率的な維持管理を進める

- ・財政面でも将来に備える必要がある
- ・新しい道路をつくるだけでなく、今ある道路を維持していくことも大事（再掲）
- ・道路予算が様々なことに使われていることを県民にPR（受益者もコスト意識）

## 2. 県民とのコミュニケーション

### （1）道路に関する情報の収集・発信・共有

- ・パンフレット、ホームページ等を活用しながら道路に関する広報・説明活動を行う
- ・道路に関する情報（異状など）を県民から収集し、迅速に対応するとともに、様々な道路情報の共有を図り、通行の安全を確保する

### （2）県民との協働

- ・施策の立案、事業の計画・実施の各段階で地域住民および民間事業者等と連携しながら道路整備、道路空間の利活用を進める

- ・住民参加の道づくりを積極的に展開していくことが重要
- ・道路の重要性を県民にわかりやすく説明
- ・道路予算が様々なことに使われていることを県民にPR（受益者もコスト意識）（再掲）

## 3. 情報化技術の活用

### （1）情報共有

- ・ICTを活用し、関係機関と情報の共有を図り、情報を道路利用者に提供することで、通行の安全性や利便性の向上を図る

### （2）デジタル技術の有効活用

- ・AI、ICT、5G・6G、ビッグデータ等の最新技術を活用し、渋滞対策、交通安全対策、自動運転車の実用化、維持管理の効率化等を図る

- ・情報化がかなり進んでおり、道路に活かしていく（再掲）